

めぐみイエス・キリスト教会

2023年2月5日(日)第一主日礼拝

午前10時より

週報「通算第643号」



2023年標題聖句

第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌148「夕べ雲焼くる」	p. 206
【交読文】	No.27 詩篇第90篇	p. 900
【賛美Ⅱ】	新聖歌419「起こし給え」	p. 674
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.1「ビジョン」	
【聖書朗読】	使徒の働き22章1節～10節 新約p. 281上段	
【礼拝説教】	《パウロのメッセージそのⅠ》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」	p. 236
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

●ポイント1. 「タルソ」とは？

■タルソ 小アジア南部キリキヤ州の首都で、パウロの故郷である。当時タルソは繁栄を極め、人口50万人を数えた。キリキヤは亜麻、天幕用のやぎの毛織物などの原料を産する他に、リンネル織りや天幕作りなどの手工業が盛んであった。タルソはアテネ、アレキサンドリヤに次ぐローマ第3の学都で、政治的、経済的、学問的に秀でていた。

●ポイント2. 「ガマリエル」とは？

■ガマリエル 神の報いという意味。著名な、ヒルレル学派に属する律法学者で、サンヘドリンの議員。ガマリエルは非常に尊敬されていたので、「ラビ」（私の教師）よりももっと優れた尊称である「ラバン」（私

たちの教師)で呼ばれていた。紀元50年頃死んだと伝えられている。

●ポイント3.「ダマスコ」とは？

■ダマスコ シリヤ地方の中心地で、アンティ・レバノンの東側山麓にある。パレスチナ南西部から北東に向かう大路と、ヨルダン川の東を南北に走る「王の道」の合流地点であり、商業的・軍事的にも非常に重要な場所であった。有名な「まっすぐ」と呼ばれる街路は、町のほぼ中央を東西に貫いている。ナバテヤ王国が遣わした代官がいた。

※使徒の働き9章1節～9節「ダマスコ途上にて」 (新約p.250上段)

9:1 さて、サウロはなおも主の弟子たちを脅かして殺害しようと息巻き、大祭司のところに行って、

9:2 ダマスコの諸会堂宛ての手紙を求めた。それは、この道の者であれば男でも女でも見つけ出し、縛り上げてエルサレムに引いて来るためであった。

9:3 ところが、サウロが道を進んでダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。

9:4 彼は地に倒れて、自分に語りかける声を聞いた。「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか。」

9:5 彼が「主よ、あなたはどなたですか」と言うと、答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。

9:6 立ち上がって、町に入りなさい。そうすれば、あなたがしなければならぬことが告げられる。」

9:7 同行していた人たちは、声は聞こえてもだれも見えないので、ものも言えずに立っていた。

9:8 サウロは地面から立ち上がった。しかし、目を開けていたものの、何も見えなかった。それで人々は彼の手を引いて、ダマスコに連れて行った。

9:9 彼は三日間、目が見えず、食べることも飲むこともしなかった。

◎先週の礼拝メッセージ【パウロの捕縛】

《パウロは、主の弟ヤコブの提案を受け入れ、四人のユダヤ人と共に、ナジル人の誓願を果たす為に宮に入り、断食と祈りの時を持っていました。その七日目のことです。アジア州から来たユダヤ人は、パウロがエペソ教会の指導者トロフィモと一緒に歩いていたことを知っています。それゆえに、神殿の中にいるパウロを見つけた時、その四人の中にトロフィモがいると勘違いして騒動を起こし、パウロを捕らえ、宮から引きずり出し、パウロを殺そうとして打ちたたいていました。

さて、その時エルサレムにはローマ軍の一部隊が常駐していました。よって、騒ぎを聞きつけた千人隊長は兵士たちと共に宮に駆けつけ、殺されかけたパウロを救出し保護します。もう少し、千人隊長の到着が遅れていたら、パウロはここで殉教したことでしょう。しかし、何時の時も、主の御手が早すぎることも遅すぎることもないのです。千人隊長がパウロを兵舎の中に入れようとした時、パウロはギリシャ語で彼に話しかけます。「少しお話ししてもよいでしょうか」

「おまえはギリシア語を知っているのか。では、おまえは、近ごろ暴動を起こして、四千人の暗殺者を荒野に連れて行った、あのエジプト人ではないのか」

あのエジプト人とは、紀元54年にあるエジプト人が預言者であると自称してエルサレムに現われ、反乱を起こそうとしたが失敗し、逃げて行方不明になったと言う事件のことです。パウロは応えます。「私はキリキアのタルソ出身のユダヤ人で、れっきとした町の市民です。お願いします。この人たちに話をさせて下さい。」

この時、パウロはあえて自分がローマ市民であることを証していないのです。千人隊長は許可します。それで、パウロは階段の上に立ち、騒ぎ立つ民衆を手で制し、ヘブル語で語りかけるのです。》

お知らせ

※次回の礼拝は、2月12日(日)です。鈴木師は、2月11日(土)鴨川「亀の井ホテル」にて催されます「房総聖会」に出席する予定です。